

第2回射水市観光振興計画策定委員会会議録

日 時：平成29年11月27日（月） 午後2時半～4時30分

場 所：大島分庁舎3階大会議室

■会議次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 議 事
 - (1) 協議事項
 - ①射水市観光振興計画（素案）について
 - (2) その他
4. 閉会

■あいさつ

次長あいさつ

- 今回は1回目の策定委員会での意見を踏まえて、策定した素案についてさらに協議いただきたい。財政状況が厳しい中で実施が難しい事業もあるかと思うが、可能なものから取り組むこととしたい。

委員長あいさつ

- 観光振興は産業振興でもあるため、「稼ぐ」という視点は非常に重要である。また合併前の旧市町村同士はもちろんのこと、周辺の呉西圏域など広域と繋がることができないと、費用対効果としても効果があがらないと考えられる。そこでどうすれば効率的に施策を進めていくことができるのかということについて今回の委員会で議論していくべきである。

■第1回会議録の説明

- 事務局説明
議事録の間違いなどがあつた場合には事務局まで報告いただきたい。

■協議事項

(1) 射水市観光振興計画（素案）について

- 事務局説明

委員長：

- 事務局より射水市観光振興計画（素案）について説明があつた。この案について委員の意見を伺いたい。

副委員長：

- P57第4章に関わる点について、この観光振興計画を推進するにあたり、観光情報の一体となった受発信が必要ではないか。P24に「旧新湊庁舎跡地の活用」として観光機能を備えたターミナルの整備とあり、その中で観光の拠点としたいという動きがある。

現状として観光関係の団体が点在している。この庁舎跡地のターミナルに港湾・観光課、観光協会、ケーブルテレビが一緒になった拠点にしたほうがよいと考えており、観光情報の一体化的な受発信の基地としてこの跡地活用を有効利用すべきだ。また観光協会の事務所に関しても手狭で会議や打ち合わせもしづらい空間であるため、それも含めて個人的には観光課と観光協会を一体化することも計画推進の基盤になるのではないかと考える。

委員：

- P 4 9 の上部に射水市観光協会の組織強化と記載とあるが具体的な内容は決まっているのか、また第3章の施策についてそれぞれ取り組み例について過去から実施している事業も見受けられるが、同じことをするのか、また、過去の内容についてしっかりと検証した上で、取り組むべきである。その上で新規・継続等をわかるようにしたら良いのではないか。

委員：

- 取り組み例はいくつか記載されているが、全ての項目が◆で表示されているため優先度がわかりづらい。例で特に重要視しているものについてわかるように記載の仕方を変えた方がよい。またP 3 9 に記載のある冬の観光についてだが、5年程前に観光協会の企画のもと観光ボランティアが協力して観光客用に長靴や傘を準備し、寒い中、主に新湊方面になるがガイドした際には冬の味覚や景色を大変賞賛を受けた。冬の観光強化はとても重要である。

委員長：

- 3人の委員から意見があったため、事務局に説明を求める。
 - ・観光情報の一元化や観光組織の一箇所集中、観光協会の強化について
 - ・取り組み例の継続と新規を区別、さらには、施策の重要度や優先度を示すことについて
 - ・冬場の観光客の誘致について

事務局：

- 意見について説明する。
 - ・情報の一元化は、今後関係団体と協議していきたい。組織の一箇所集中は組織機構に関わることであり、関係課と協議が必要である。
 - ・観光協会の強化としてはP 4 9 に記載のあるとおり、地域や民間の事業者とのコーディネート等の推進を深めていきたい。
 - ・新規や拡充の追記、重要度等についてもわかりやすいように修正したい。なお、これまでも推進会議を開催し検証してきたが、この計画についても、今後、推進会議を設置し事業の実施の効果を検証していきたい。
 - ・アンケート調査からも冬の観光客誘致の重要性が表れているため、強化を図りたい。

委員：

- 過去の取り組みの検証については、良かった点、悪かった点を踏まえ、悪かった点については、廃止や改善策を盛り込んだ計画で提案いただければと思う。

委員：

- 第4章について、計画推進のための関係者として「地域経済団体」を追加してほしい。

委員長：

- その他にも農業団体や漁業団体についても記載すべきだと思われる。

事務局：

- 追加させていただく。

齋藤委員：

- P30の課題の中で、特に(3)のうち産業観光、(5)のうち宿泊施設の充実、(7)のうち2次交通網の充実については、根本的な部分が解決しなければ、周りをどれだけ飾り付けでも解決策にならないのではないか。

事務局：

- 様々な場面で、宿泊施設の問題はこれまでも言われており、総合計画でも企業誘致に絡め宿泊施設の不足は取り上げており、課題と考えている。宿泊施設の誘致に努めているが、はっきり言えない部分もあるので、今の段階では、このような表現にさせてほしい。
- 商工企業立地課としても企業立地及びホテル誘致について3大都市を回るなど、誘致の強化に力を入れている。

委員：

- 2次交通の問題について、交通事業者として委託を受けて、今年度射水ベイバスを運行したが、PRが足りないように感じた。交流人口を増やす上でも交通網を含めた告知は重要であり、具体的な取り組みを考えていく必要があると思う。一つの方法として、広域での連携も有効と考えている。旅行業者等に向けたPRの機会を持つべきである。

事務局：

- 射水ベイバスについては乗客人数が少なかったため、来年度以降の運行については、PRを含め検討したい。小杉駅からベイエリアまでの2次交通も必要と考えているが、広域的な観点からも検討したい。

委員：

- 計画の目標について目標だけにならないよう、毎年必ず数値が達成されていたかを確認しなければならない。また取り組み主体としては事業者が最も重要であるため、事業者の意見をもっと取り入れてほしい。

委員：

- P56に自然や景観の保存について施策の記載があり、内川の景観が大好きで、移住してきた身としても喜ばしい。今回の計画では、食、景観、文化となっており、景色が重要なものとして位置づけられたものと思っている。個人的には単年度の数値目標については業者に努力してもらうこととして、難しいと思うが自治体としては自然や景観の保存さらにはどのような文化をどのようにして守っていくのかを中・長期で考えてもらいたい。今でも毎年取り壊しなど内川周辺でも景観の変化が起こっており、無くしてからでは取り戻せない価値のあるものと認識し、真剣に取り組んでほしい。例えば文化的景観に認定されるようにするなど、高い目標を掲げてほしい。後世に残すためには、今から動き出す必要があるので危機感を共有したい。

委員長：

- 1点目が様々な事業所の意見を反映したほうがよく、どのような形で計画に反映させるか、2点目が景観の保全とそこの空き家対策の問題、そして、市の文化や産業を守り事業者との方向性を共有するためにもP41の基本目標に哲学的な部分を追加してほしい。

事務局：

- これまでも事業者の方の意見を取り入れて実施してきた事業も多く、事業の実施にあたっては、今後も連携して意見を取り入れながら実施していきたい。また、景観や文化の保存については、重要で大きな問題であると認識しており、複数の部署にまたがる部分もあるため、情報共有し検討していきたい。

副委員長：

- 委員が言われたとおり、観光資源がなくなると観光は成り立たないという根本的な問題である。委員長も言われたのもこの計画の基本方針に、市として観光資源をどのように守って、どのように使っていくのかを哲学的に明記すべきではないかという指摘だったと思う。基本方針の書き出しが、「前計画の基本方針である」となっているのはよくない。基本方針に「市の宝」を守るため、どのような施策を展開しブラッシュアップしていくというのならわかるが、もっと明確な方向性が分かるような覚悟をもった内容としたほうがよい。

事務局：

- 基本方針については、市の考えを取り入れた書き出しに見直したい。

委員：

- P 4 9 の特産品について、一番重要なのは「消費者から求められる商品」である。従来、地域資源があるためそれを活用して商品を開発しているが、それが実際に消費者にとって継続的に購入したいと思われるものにしないといけない。そのため、消費者目線に立って観光客が求めているものにするにはどうすればよいのかといった切り口についても明記するとよいのではないか。

委員：

- 私達委員の意見に加えて、より多くの事業者からの生の声を聞くことも策定において重要である。

事務局：

- P 5 7 にも記載があるが、各地域のつながりや地域同士のつながりが大切だと思う。各種団体のつながりといった仕組み作りをしていきたい。

委員：

- P 4 9 の取り組み例の4項目「市内の観光関連事業者」について幅を広げるためにも、「市内事業者」で良いかと思う。

事務局：

- そのように修正させていただく。

委員：

- 作成されている観光パンフレットの数が多すぎるのではないか。それぞれのパンフレットの内容を検討し、有効活用するためにも質の向上や内容の重複の確認を今後行ってほしい。

委員：

- 景観等の維持について、街なみや内川に係留している漁船の数なども減ってきているが、これまでの約13年間の努力により、内川周辺等の観光に対する地域住民の認識が良くなってきている。自治会との協力も大切だと感じる。

委員：

- P 4 1 の数値目標（案）で、ホームページアクセス数の目標値は年間か月間か。また

この根拠はあるのかが知りたい。今後HPに注目が集まっていくため、数値は少ないように感じる。参考として富山市では月間のアクセス数が34万9千であった。

事務局：

- この目標値は訪問数（セッション数）で、年間の数値としている。また根拠としては入込数をベースに目標値を設定している。
ホームページの数値目標は見直したい。

委員長：

- インバウンドが叫ばれているが、例えばテロ等の母国の情勢によっては観光客としての入込を見込めない。一番ベースとなる観光客は周辺に住む人々であり、その上に首都圏からの観光客、さらにその上に外国人観光客がいる。新幹線が開通し、人の流出をさけるためにもそのベースが誰であるのかをしっかりと整理しておかなければいけない。

委員：

- インバウンドは外国人旅行者のみに使用されるものではない。効果的なPRのためにもインバウンドとアウトバウンドを分けて考えていく必要がある。「ブリVSカニ」といったような印象のある広告をうつのも良いかもしれない。

委員：

- 情報提供であるが、最近内川の景観を気に入った外国人の方が中町に移住し、四十物町でバーを開業しようとして計画している。是非情報発信に向けて協力してもらいたい。その方と話していて、内川の雰囲気はとても良いがそこからのストーリーが薄いように感じる。ピクトグラムや外国語の看板の設置等ではなく、何か効果的な方法でその良さを出せるようにできたら良い。

委員長：

- 大変貴重な意見をいただいた。この意見を素案に取り入れ内容を充実させていただきたい。

事務局：

- ここで、本日欠席の方からの書面でのご意見について報告させていただく。
 - ・観光により地域経済が潤うことが重要なため「稼ぐ」という視点で計画を作成するとよい。
 - ・とやま観光推進機構のマーケティングデータをわかりやすく提供していくので活用していただきたい。
 - ・案内標記は、言語数が多いと分かりにくく景観を害する恐れがあるため「日・英・ピクトグラム」等抑えた標記とし、パンフレットやHPではできる限り多言語表記ではなく、言語ごとにしたいほうがよい。それでは、委員の皆様からいただいた意見・提案を反映させた形でプランを修正し、1月にはパブリックコメントも反映させた最終案をお示ししたい。
次回の最後の委員会は2月9日（金）に開催したい。
1月になってから、この日をベースに再度調整し案内したい。

副委員長閉会あいさつ

- 今回の委員会において、計画策定に一番重要なのは観光資源を保全していくことだと実感した。委員からも情報提供があったが、射水市に魅力を感じて移住される方もいるため、その期待を裏切らないようにしたい。また新規のお店の誘致等についても何

かしらサポートできれば良い。

会議終了